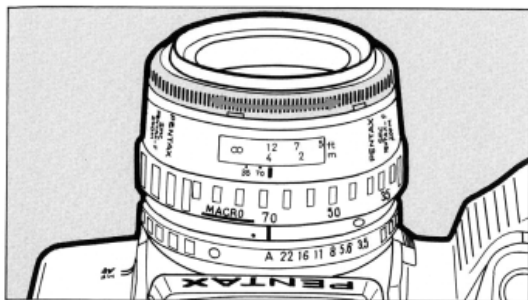
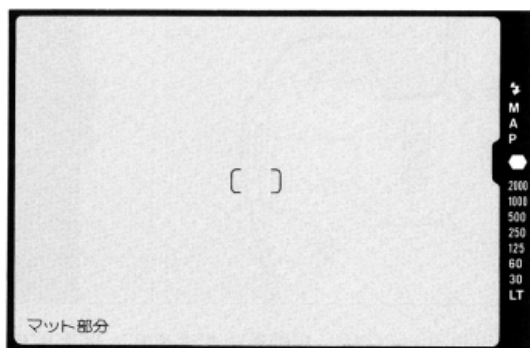




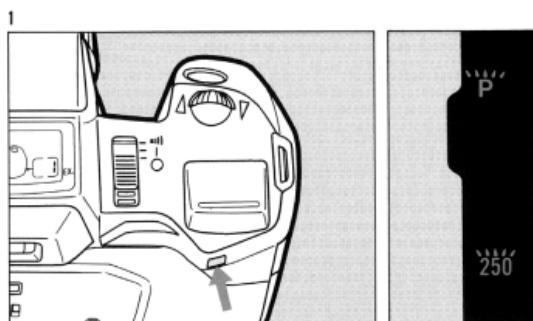
下記のようなときは、 が利用できませんから、ファインダーの  マーク以外のマット部分を使って手動でピント合わせをします。

- 「オートフォーカスの苦手な被写体」や  が出ないとき。
- 開放F値がF5.6より暗いレンズ。
- ベローズ100mm F4・シフト28mm F3.5〔シフト時〕レフレックスタイプのレンズ。
- 旧タイプのねじ込み式タクマーレンズに、別売りの「マウントアダプターK」を取り付けて使うとき。



「マット部分でのピント合わせ」は、 マークに関係なくスクリーンのマット部分でピント合わせをすることです。

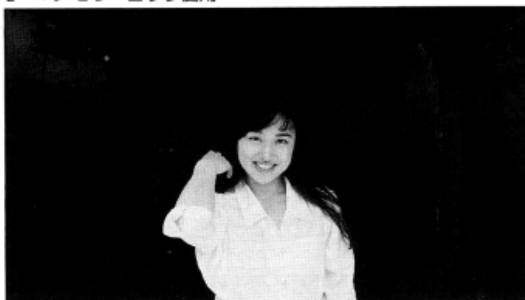
ML [メモリーロック]の使い方



メモリーロックは、自動露出のときに、撮影前の露出情報をカメラへ一時的に記憶させるもので、露出の補正をするときに使用します。

逆光や背景の明暗が激しい所などでの人物撮影などにご利用ください。

2 ●メモリーロック使用



1. 人物の顔などをファインダーいっぱいに入れて、 ボタンを押します。押している間は顔の明るさに合った露出が記憶されます。

*メモリーロック中は、ファインダー内の露出表示が速い点滅で知らせます。

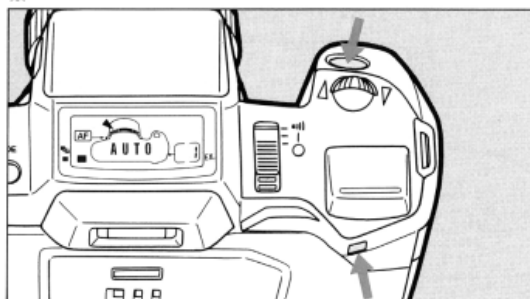
2. 写真のように、メモリーロックを使って希望の構図に戻して撮影すれば、人物が適正露出になります。

*  ボタンから指を離すか、または、シャッターを切ると記憶は解除されます。

●メモリーロックなし



※

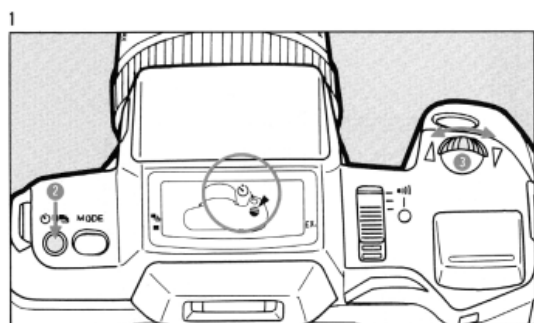


※メモリーロック中にシャッターボタンを軽く押し続けると、**ML** ボタンから指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。

- ③メモリーロックを使うときは、被写体に近づいたり、ズームレンズのときは望遠側にしてご利用ください。
- ④マニュアル露出でも、**ML** ボタンを押すと、ファインダー内のシャッター速度の表示は固定され、表示が点滅します。

49 ●

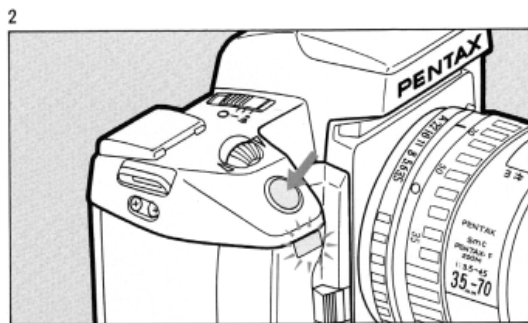
セルフタイマーの使い方



セルフタイマーは撮影者も入って記念撮影などをするときに使う、タイマー撮影です。

1. ②の **●** ボタンを押したまま、③の **●** ダイアルを動かして **S** の表示を出します。

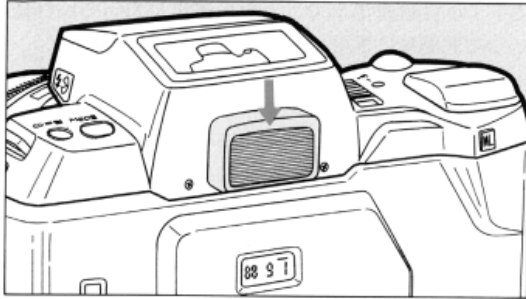
* スイッチを **■** に合わせておくと、セルフタイマーの作動中はセルフタイマーランプと電子音で知らせ、シャッターが切れる 2 秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ピピピ」になります。



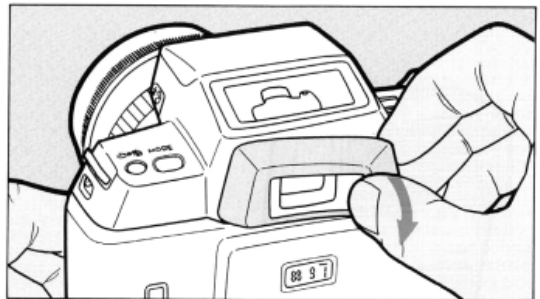
2. 写したいものにピントを合わせたまま、さらにシャッターボタンを押すと、約12秒後にシャッターが切れます。

* セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、スイッチを **○** にして、電源を切るとセルフタイマーは解除されます。なお、スイッチを **I** か **■** に入れ直すと、**■** [1コマ撮影] になります。
[**■** か **■** にしても中止します。]

※



※ファインダー窓から目を離して自動露出で使うときは、ファインダー窓から入る光のために露出不足になることがあります。セルフタイマーを使うときは、付属のファインダーキャップをご利用ください。

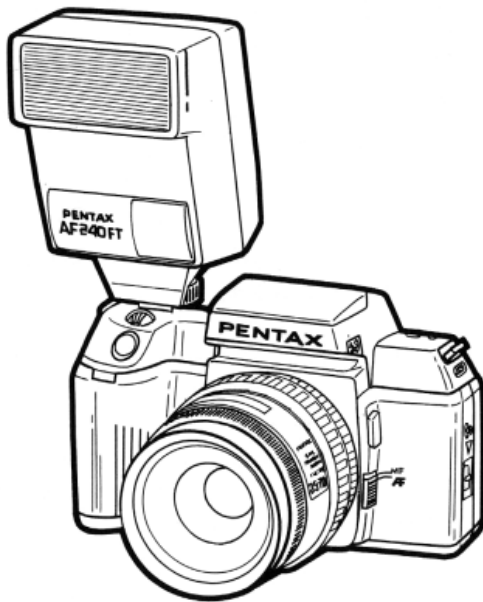


アイカップF_Bは、カメラのアクセサリ取り付け溝に取り付けられています。

- *「視度調整レンズM」や「ファインダーキャップ」などのアクセサリを使うときは、アイカップF_Bを取り外して使います。
- *アイカップと視度調整レンズを併せて使いたいときは、別売りの「アイカップMⅡ」と「67用視度調整レンズ」を組み合わせてください。

51

ペンタックス・専用オートストロボの使い方



SF7が自動露出やマニュアル露出になっていればいつでも簡単に専用オートストロボが使えます。

専用ストロボ撮影の手順

1. カメラの「ホットシューカバーF_B」を外して、ストロボを取り付けます。
 2. ストロボのモードをTTLオートか外光オートに合わせます。
 3. ストロボの電源スイッチを入れます。
- * ストロボの充電完了確認は、ストロボの充電完了ランプでできますが、シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内の  が光ります。
 - * シャッターボタンから指を離すと、約5秒後に  と「シャッター速度」の表示も消えます。
- * SF7には、右表のように豊富な機能を持った、専用ストロボ「AF400FTZ」や「AF240FT」をご利用ください。

内蔵ストロボおよび専用ストロボの機能一覧表

SF7の機能	SF7 内蔵ストロボ	AF400FTZ AF240FT	AF400T AF280T	AF200T AF080C	AF200SA AF140	AF200S AF160
ストロボの充電完了時、シャッターボタンを軽く押すとファインダー内の [] が光ってシャッター速度が自動的にストロボ同調速度に切り替わります。	○※	○	○	○	○	
絞りG Aのときは、絞りは自動的に合わせられます。	○	○	○	○	☆	
オートストロボが正常に働いたときは、ファインダー内の [] が発光後に点滅表示します。		○	○	○		
ストロボの発光量は、撮影中のフィルム面光量を測定しながら自動的に調節します。[TTLオートストロボ]	○	○	○	○		
マニュアル露出のときは、1/100秒以下の低速シンクロ撮影が可能です。	○	○	○	○	○	
暗い所ではAFスポットビームが発光します。	○	○				
先幕・後幕シンクロ撮影の切り替えができます。		○				

※旧タイプの「AF140」や「AF160」・「AF200S」は、ストロボで決められた絞りに合わせて使用してください。

注 ストロボが不要な程度に明るい所では、オートストロボに切り替わっていてもストロボが発光しないこともあります。

※印は充電完了時に、 [] が表示されます。

☆印「AF200SA」は自動的に合わせられます。

TTLオートストロボ

SF7の内蔵ストロボやペンタックス・専用TTLオートストロボを使ったときは、レンズを通してフィルム面に当たる光の反射を直接測光し、適正露出となるように、測光回路がストロボの発光量を自動的に調節します。被写体からの反射光だけを測るため、正確な露出が得られます。

53 ●

TTLオート・外光オートストロボの使い方

TTLオートストロボの使い方

プログラム自動露出・シャッター優先自動露出

※SF7専用の「AF400FTZ」や「AF240FT」は、内蔵ストロボと同様、被写体の明るさに応じてシャッター速度や絞りが自動的に切り替わるので、日中シンクロ撮影も簡単にできます。詳しくは、ストロボの説明書をご覧ください。

※従来の「AF200T」・「AF280T」・「AF400T」・「AF080C」では、充電が完了すると、ストロボ同調速度の1/100秒と絞りF4〔ISO 100のとき〕に切り替わりますので、日中シンクロ撮影には、おすすめてできません。

〔AF080CはF8・ISO 100のとき〕

注 ISO 100では自動的にF4になります。このとき開放F値が変化するズームレンズ〔F3.5～F4.5〕をF4.5側で使うと露出不足になる場合がありますのでご注意ください。

絞り優先自動露出・マニュアル露出

※レンズの絞りを、希望の絞りに合わせます。

※充電が完了すると、1/100秒に切り替わります。

外光オートストロボの使い方

プログラム自動露出・シャッター優先自動露出

※「AF200SA」・「AF200T」・「AF280T」・「AF400T」などは、スイッチをオート〔赤・緑・黄〕位置に合わせます。

※充電が完了するとシャッター速度は、1/100秒になり、絞りは下表のように切り替わります。

ISO 100のとき

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄	—	—	F11

〔AF200SAは、オート専用機でISO 100のときF4になります〕

注 表のようにISO 100で「AF280T」の赤を使うと自動的にF4になります。このとき開放F値が変化するズームレンズ〔F3.5～F4.5〕をF4.5側で使うと露出不足になりますのでご注意ください。

絞り優先自動露出・マニュアル露出

※ストロボのオート〔赤・緑・黄〕に合わせます。

※レンズの絞りは、ストロボの計算盤で指定された絞りに合わせます。

※充電が完了すると、1/100秒に切り替わります。

TTL・外光オートストロボの共通な使い方

S F 7 のマニュアル露出では、シャッター速度を 1/60 秒～1 秒の範囲内に合わせると、低速シンクロ撮影ができます。

シャッター速度は、 ダイヤルで希望の速度を選びます。

低速シンクロ撮影

夜景などを背景にして、近くのものや人物にストロボをあてるとき、通常にストロボ撮影をすると背景が暗くなってしまいますが、シャッター速度を低速にしてストロボを発光させると、背景の様子もバランス良く写し込むことができます。

* シャッター速度を 1/2000～1/125 秒にしているときは、充電が完了すると、1/100 秒に切り替わります。

[オートチェック]表示

TTL・外光オートストロボが適正な発光をすると、ストロボ発光後に、ファインダー内の  が点滅して、ストロボ撮影の完了を知らせます。

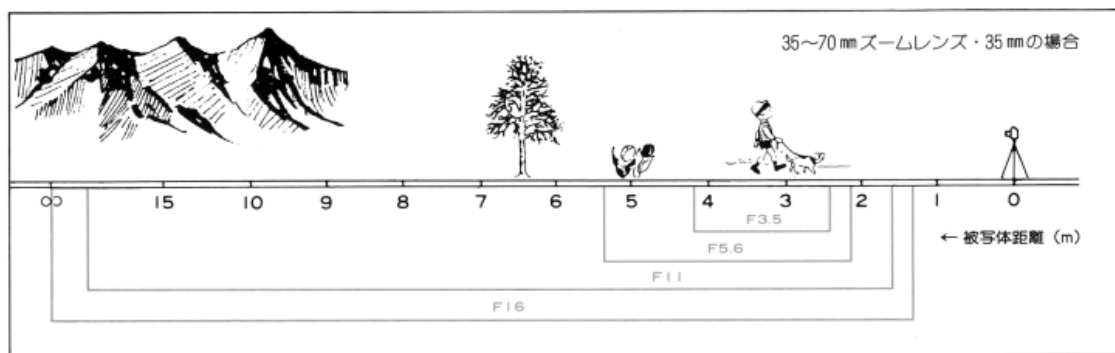
* 「AF200S_A」には、この機能はありません。

専用ストロボ使用上の注意

- ストロボの MS [マニュアルシンクロ]、M [マニュアル] では、ストロボで決められた絞りで使用してください。
絞りを **A** にしたいときは、適正露出が得られません。また、ストロボの種類によっては、MS、M の機能が異なる場合がありますので、ご使用のストロボの使用説明書をご覧ください。
- TTL オートや外光オートストロボで、増灯撮影をするときは、内蔵ストロボとペンタックス専用ストロボを組み合わせると増灯撮影ができます。ストロボ機能はホットシューに取り付けたストロボが優先します。撮影のときは、各ストロボの充電完了を確認して行なってください。
- **bulb** [バルブ] 使用でも、TTL オートや外光オートストロボの撮影は可能です。
- AF080C リングライトをホットシューの上に取り付けるときは、ホットシューアダプター F を用いるとシャッターボタンの操作が楽になります。

55 ●

被写界深度



被写体の、ある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。



ピントの合う範囲

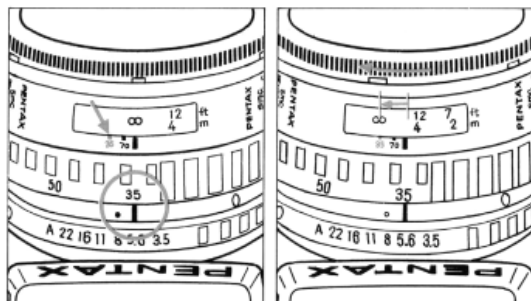
絞り込むほど、広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。絞りを換えることによってピントの合う範囲 [奥行] が変わります。

ズームレンズの被写界深度目盛は機構的に入っていないものもあります。

●絞りF4



●絞りF22



赤外線フィルムとR 2やO 2のフィルターを使用して赤外線写真を撮影するときは、一般撮影〔可視光〕とピント位置が異なってくるため、ピント補正が必要です。

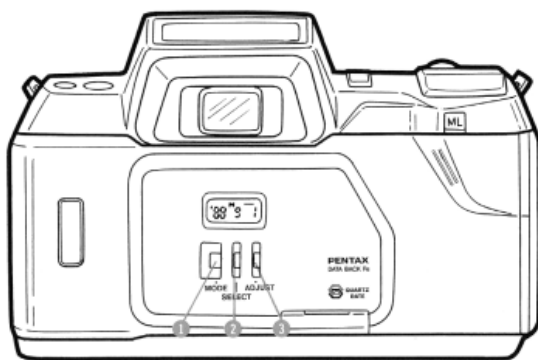
ファインダーでピントを合わせたときの距離目盛りを読み取り、レンズの距離リングを回し、赤外線指標の位置までずらして撮影します。

図のように、ズームリングの数字が35のときは、距離目盛りを35の赤外線指標〔赤線〕にずらします。

④ レンズの距離リングを回すときは、必ず、**MF**〔マニュアルフォーカス〕にします。

57 ●

クォーツデートのデータ修正



- ① **MODE** モード：切り替えボタン
- ② **SELECT** セレクト：選択ボタン
- ③ **ADJUST** アジャスト：調整ボタン

* 数字は、次のように表示されます。

年 = 87 ~ 19	[1987 ~ 2019年]
月 = 1 ~ 12	日 = 1 ~ 31
時 = 0 ~ 23	分 = 00 ~ 59

データ修正

1. ②の**SELECT** ボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅するところが移動しますので、修正したい数字を点滅させます。

点滅の順番

年月日表示のとき 年 → 月 → 日

時分 表示のとき 時 → 分 → :

2. ③の**ADJUST** ボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。

* **ADJUST** ボタンは一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2~3秒後から早送りされます。

* データの修正を行なうときは、コイン等をご使用ください。

「年月日」表示の修正

- ②の **SELECT** ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
- ③の **ADJUST** ボタンを押して、データを合わせます。
- 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

「日時：分」表示の修正

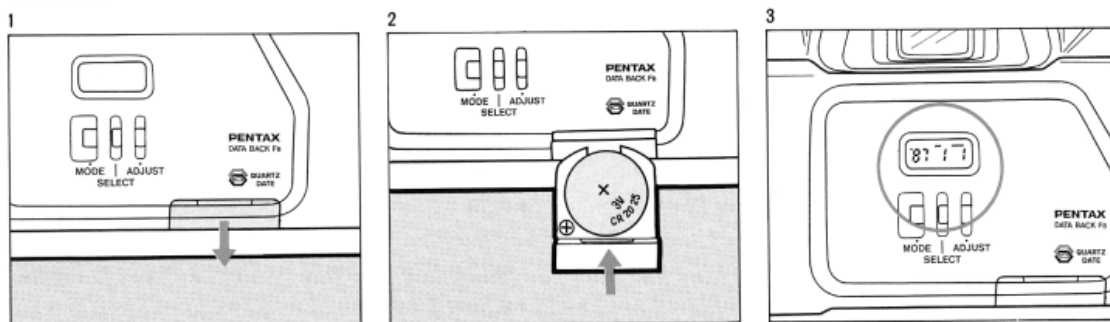
- ②の **SELECT** ボタンを押し、時分秒[:]表示のうち修正したい数字[秒は:]を点滅させます。
- ③の **ADJUST** ボタンを押して、数字を合わせます。
- 秒[:]を合わせるときは、③の **ADJUST** ボタンを押し、時報などに合わせて離すと0秒になります。
- 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押し、点滅を止めます。

クォーツデートの使用上の注意

- 「年月日」と「日時：分」は同時に写し込めません。
- デートの使用可能温度は約50℃～0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなる場合があります。
- 使用できるフィルムは、感度がISO 25～1600までのものです。
感度はS F 7にDXフィルムを入れると自動的に合わされます。
- 高感度フィルム[ISO 1000・1600]を使ったときは写し込まれる文字がにじむことがあります。
- ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなる場合があります。
- 修正途中[点滅表示]は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- 時計の機能が正常に働かないときや、データ表示が薄くなってきたり、消えたときは、データの写し込みが正しく行なわれない場合がありますので、電池を交換してください。

59 ●

クォーツデート用の電池の交換



- S F 7の裏ぶたの電池ケースを矢印方向に引き抜いて電池を取り外します。
- 新しい電池の⊕側を上にして電池ケースに入れ元の位置に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

- 電池を入れると、データが表示されます。表示が出ない場合は、電池の⊕⊖を正しく入っているかを確認してください。
[データ表示の修正は58～59ページをご覧ください。]

* 電池は必ず決められたリチウム電池 **CR2025** を1個使用します。